

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY

なごや ちくさ

題字 黒野清宇

名古屋千種ロータリークラブ
 承認 1982年 8月24日
 例会日 火曜日 12:30
 例会場 名古屋東急ホテル
 事務局 TEL763-5110 FAX763-5121
 会長 三好 親
 幹事 伊藤 健文
 広報・会報委員長 吉田 玄

No.11

地域を育み、大陸をつなぐ

BUILDING COMMUNITIES BRIDGING CONTINENTS

2010~2011年度 RI会長 レイ・クリンギンズミス

今日の例会

第1333回 平成22年9月27日(月)
ガバナー公式訪問(名古屋東・名古屋昭和RC合同)

《田嶋好博ガバナー紹介》



生年月日 1939年(昭和14年)3月1日
 職業分類 民事弁護士
 勤務先・役職 田嶋・水谷法律事務所 弁護士
 所在地 名古屋市西区菊井2-4-5

【経歴】

1961年3月 中央大学法学部卒業
 1962年 最高裁判所司法修習生
 1964年 弁護士登録

【公職】

愛知県弁護士会副会長
 名古屋地方・簡易裁判所調停委員
 名古屋地方裁判所鑑定委員
 愛知県地方労働委員会会長
 愛知県個人情報保護審議会会長

【ロータリー歴】

1972年10月 名古屋北RC入会
 1998-1999年 クラブ会長
 2005-2006年 東名古屋分区ガバナー補佐
 2008-2009年 ガバナーノミニー
 2009-2010年 ガバナーエレクト
 マルチプル・ポール・ハリスフェロー
 ベネファクター 米山功労者

《ガバナー方針》

『クラブに夢と活力を』

- ・毎日が職業奉仕
- ・ITの活用
- ・メイクアップは例会に出席して

先週の例会

第1332回 平成22年9月21日(火) 晴
 卓話 “インターアクトクラブについて”
 地区インターアクト副委員長 服部英男君
 地区インターアクト委員 堀本保美君

◆それでこそロータリー

◆ビジター紹介

地区インターアクト副委員長 服部英男君
 地区インターアクト委員 堀本保美君
 大阪西南RC 津田良樹君

◆出席報告

会員 43(39)名 出席 31名
 出席率 79.49%
 前々回 9/7(修正出席率)97.44%

伊藤幹事報告

- 1) 次回例会はガバナー公式訪問で27日(月)12時30分より名古屋東急ホテル3階パロックの間にて開催いたしますので28日(火)の例会はございません。

三好会長挨拶

今日は9月21日、やっと少し涼しくなってきました。でも先日もお話したように山ではもう秋がどんどん深まっています。先週北海道では紅葉が始まったそうです。川もほとんどが今月いっぱい禁漁となります。イワナ、アマゴ、ヤマメ等です。それは、これから彼らが産卵の時に入るからです。川の上流部、彼らが生まれた川です。生まれて川を下るものと居残るものに分かれます。川に残るものは強く、良いエサ場を確保できる固体です。そして、気の弱い固体は居場所が無く仕方なく川を下り、海(湖)へと旅立ちます。そして特に海に出るとき“銀化(ぎんけ)”と言って、体を海水にも大丈夫な様に順応させる訳であります。中でもサクラマスと云われる種は、降海

後約1年でふるさとの川に戻ってきます。このことはサケも同じです。サケは4～5年回遊しますがサクラマスは1年位（日本列島周辺）です。なぜ、生まれた川に戻れるか非常に不思議ではありますが、確かに川は臭いも、味も違いがあると思います。特に海からの河口に近いところでは分かり易いのではないかと思います。

それは、流域の人々の生活、土質、生えている木々によって、その川独特の有機物、無機物、何かがあるのだと思います。

《予断ですが何の濁りも無い100%きれいな川は何も住んでいません。ホテルもそうです。きれい過ぎるとダメなんです。生物にとっては……。》そして生まれ故郷に戻ると、今度は居残り組みが小さく、圧倒的に降海組は大きく（約50cm）なって帰ってきます。（居残り組はせいぜい20～30cm）大逆転です。

そして、メスとの交尾に関しても圧倒的に優位に立ち本来の自分の子孫を残す訳であります。イワナにしてもアマゴ・ヤマメにしても、一度の産卵で死ぬことはありません。

たまに見かけるのは1匹のメスに対し、大きな降海組に小さな居残り組が一緒になって卵に精子を放っている場面です。

でも本当にエライと思うのは、自分たちを海に追いやった（その時強かった）居残り組に対し、仕返しで殺して食べてしまうことも無く、何の恨みも無く生きていることが、健気で、純粋で素晴らしいと思えました。

委嘱状伝達



松前憲典ガバナーエレクトより
次期ガバナー補佐 大口弘和君へ委嘱状が届き、
会長よりお渡しお致しました。

◆大阪西南RC津田良樹君へバナーを会長よりお渡しいたしました。

◆ 卓 話 “インターアクトクラブについて” 地区インターアクト副委員長 服部英男君



皆さんこんにちはご紹介をいただきました、地区インターアクト委員会の服部英男と申します。所属は岡崎南ロータリークラブです。

今日は、大切な例会の時間をお与えいただきクラブの方々に厚くお礼申し上げます。

2010年～2011年度の地区の新世代組織が変わったことはご承知の通りと思います。

また国際ロータリーも大きく方向転換をしております。すでに昨年度国際ロータリーには新世代委員会は存在しなくなりました。

2010年規定審議会にて、新世代奉仕が第五の奉仕部門として決定されたことにより、若者たちをロータリーに積極的に参加させるというロータリーの誓いは以前にも増して強いものとなりました。

新世代奉仕部門は、

標準ロータリークラブ定款の第五条に次のように加われました。

5. 奉仕の第五部門である新世代奉仕は、指導力養成活動（RAYLA）、社会奉仕プロジェクトおよび国際奉仕プロジェクトへの参加（インターアクト・ローターアクト）、世界平和と異文化の理解を深め育む交換プログラム（青少年交換）を通じて、青少年ならびに若者によって、好ましい変化がもたらされることを認識するものである。と加われました。

今年度当地区においても、いろいろといきさつはありましたが、新世代委員会は廃止され、インターアクト委員会、ローターアクト委員会、ライラ委員会、と今年度新たに国際交流から移ってきました、青少年交換委員会の4委員会にてガバナー直轄で新世代活動を行っていくこととなりました。

それでは、インターアクトについて基本理念を中心に、その事業についてお話させていただきます。

国際ロータリーの奉仕活動には、大きく分けると二つの奉仕分類に分けることができます。一つは、飢餓、貧困への救済、もうひとつが、青少年

育成事業であります。

この青少年育成事業を担当するのがインターアクト委員会、ローターアクト委員会、ライラ委員会、青少年交換委員会です。

先ほど申し上げましたように、現在国際ロータリーにおいて、新世代委員会は無くなり、新世代担当のコーディネーターの元に4委員会が活動を行うことになっているようです。

当地区においても本年度から新世代委員会が廃止され次年度はたぶん、第五の新世代奉仕として発足するのではないかと思います。ロータリーで言う、新世代とは、一昨年度までは・14歳～30歳の青少年達をさしおりましたが、一昨年度のIR会長リー・ドンカン氏の「夢をかたちに」のテーマで0歳から30歳の青少年達となりました。

今後はインターアクトよりも若い年代である、小学生、中学生を対象としたクラブが発足するものと思います。

新世代関連の各事業プログラムが、ロータリーの奉仕の精神に基づいて、貴重なクラブ員の浄財を使い、事業活動に、心血を注いでも、すぐにその成果を確認することが非常に難しく、成果を追求することはなおさら難しい事業であります。未来に向けて成果を託すしかないのが青少年健全育成事業です。

また、その事業プログラムの恩恵を受けた、青少年達が、将来どのような成長していくのかも予測できません。

そして、その受けた恩恵がその青少年達の将来に生かされていったのかどうか、どのような影響を与えたのかも確認することが非常に難しいのが現実であります。

ようは、新世代活動の理念は、費用対効果は求めない、夢と希望を託して活動を継続すること、だからこそ、企業ではできないことを奉仕団体として実施できる。これが、新世代活動の理念であります。

私は、6年間のうち海外派遣研修に3回、国内派遣研修に1回参加させていただきました。

海外・国内を問わず、派遣研修の前に、国内での事前研修2回（一泊二日）をおこないます。派遣事前研修でも、実際に高校生がみるみる成長をしていきます。派遣研修では、海外でのホームステイ、現地高校との交流で本当に変わっていくことを目のあたりにして、初めて国際ロータリーの新世代育成事業の成果を目にいたしました。

このロータリーの青少年健全育成プログラムを通して、将来の未知なる若者たちに、貴重な浄財を使って、青少年達に、将来の社会生活において、よき社会人となり、よき社会の指導者となり、よく地域文化の伝統を継承し、地域に貢献する人材の育成を願うことであるとともに、同時に、ロータリーの奉仕の精神を継承し、各分野での奉仕の

リーダーへと成長することを願い、その実現に向けて、ロータリーの心血を注ぐ奉仕が新世代関連の奉仕であります。

インターアクトの目的・目標

インターアクトクラブは、奉仕と国際理解に貢献する世界的友好精神の中で相共に活動する機会を青少年に与えるために結成されます。

インターアクトクラブに入会できる者は高校に在学中の学生または年齢14歳から18歳までの若い人でしたが、現在は12歳から18歳となっており中学生も対象になったようです。

現在のところ中学校を主体としたインターアクトクラブは日本にはないようですがいずれ誕生するものと思われま

す。毎年、インターアクトクラブは少なくとも2つの社会奉仕プロジェクトを行い、そのうちの1つは国際理解と親善を推進するものとされておりま

す。プロジェクトを通じて、インターアクターは地元社会や海外のクラブと友情のネットワークを築き、奉仕活動は、インターアクターの活動の真髄で、奉仕活動を通じて

- ・指導力と人間としての高潔さ
- ・他者を助け、他者を尊重すること
- ・個人の責任と懸命に努力することの価値
- ・国際理解と親善を推進すること

を学びます。

桜花学園インターアクトクラブは地区内でも非常に活発に活動をされているインターアクトクラブのひとつです。まさに、奉仕活動を通じて学ばれていることと思

います。またクラブ員の数はNO.1だと思います。

現在愛知県2760地区では昨年度愛知啓成高校インターアクトクラブが発足し、16のインターアクトクラブが23の提唱ロータリークラブにて活動しています。16のクラブのほとんどのインターアクトクラブが高等学校を母体としているのに対して当地区には珍しく名古屋YMCAを母体としてコミュニティー主体のインターアクトクラブがあります。

また、ひとつのインターアクトクラブを複数のRCが提唱しているクラブもあります。

貴クラブも3つのRCが桜花学園インターアクトクラブを提唱されているように・単独ではなく協同で提唱することによりクラブの負担は減るものと思

います。次に、地区のインターアクトのプログラムをご紹介します。

地区インターアクトのプログラムとして、毎年インターアクターを連れて・海外派遣研修を行ってまいりました。

第一回は1968年-69年に始まり、276地区として長野と合同で始まり、アメリカ西海岸3週間の

研修であったようです。

その後、ハワイでの研修をへて、1994年-95年から愛知県単独での研修と移り変わり、ハワイ、オーストラリア・シドニー、ブリスベン、メルボルン、パースと場所を変えてきております。

2006年-09年まで委員としてオーストラリア・メルボルン・パースに、コーディネーターとして同行させていただきました。

残念ながら昨年度はインフルエンザで海外中止となり、本年度も地区の意向で国内研修となりました。非常に残念でなりません。

次年度は是非海外派遣を再開していただけるよう、ガバナー、ガバナーエレクトにお願いをしており、内諾はいただいております。

地区と地区・クラブとクラブが国を超えてインターアクトが交流できることを目標として次年度に向けて準備をしているところであります。

もうひとつは、地区大会のインターアクト版のインターアクト年次大会であります。

IACの活動は、若木に、ロータリーの健全育成の願いと、思い、滋養を注ぐプログラムであります。

また、青少年育成プログラムの活動は・広大な砂漠の砂に・ロータリーの浄財と・心血の清流を注ぎ続け、何時か若木の芽が出ることを遠望する崇高なプログラムであります。

我々日本人、そしてロータリアンは、日本文化の良さ、日本の特徴を維持する。暗黙知を大切に、新世代の日本人を育てる責任があります。

そんなことで、今日、例会にご参加の皆さん、これからの日本を背負って立つ新世代へ多くのご支援と桜花学園高等学校インターアクトクラブへのますますのご支援をお願いするとともに、貴クラブよりインターアクトクラブ提唱クラブとして地区への出向を是非お願いいたしまして、卓話をおえさせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。

ロータリーの友9月号より

管理委員長の思い

2010-11年度ロータリー財団

管理委員長 カール・ヴィルヘルム・ステンハマー

ロータリーには多くの青少年プログラムがあります。インターアクトやロータリー青少年交換といった若い参加者のためのプログラムは、ロータリー財団から補助金を提供されているわけではありません。しかし、これらはロータリーにとってとても好ましい公共イメージを生み出すものであり、それによってロータリー財団も恩恵を受けています。また、これらのプログラムを通じて初めてロータリーを経験する参加者が、将来的にロータリークラブの会員となり、財団への寄付者となる可能性を秘めているという点からも、青少年プログラムはとても重要と言えます。

国際親善奨学金、研究グループ交換、ロータリー世界平和フェロウシップなど、もう少し年齢層の高い参加者のためのプログラムは、ロータリー財団からの補助金を受けて実施されています。私が特に関心を寄せている平和および紛争解決の分野における国際問題研究のためのロータリー・センターは、いつの日か、ロータリープログラムという宝石箱を彩る中心的な宝玉となるかもしれません。

私たちは、ロータリー・センターのプログラムのために、9,500万ドルを目標とする募金キャンペーンを行っています。この募金活動は、年次プログラム基金や恒久基金、さらにはロータリーの2億ドルのチャレンジなどと同様に大切なものです。

すべての青少年プログラムが平和プログラムです。特に、青少年交換の参加者は、まったく新しい環境の中で平和大使として活躍します。多くの期待に応える青少年交換の参加者は、私たちの大いに誇りとする人たちです。

年齢を問わず、また自国か外国かを問わず、地域のプロジェクトに参加する学生は誰でも、「超我の奉仕」を通じて「地域を育み、大陸をつなぐ」人たちなのです。

ニコボックス

地区インターアクト副委員長 服部英男君

卓話をさせていただきますよろしくお祈りします

※謝礼もニコボックスに入れて頂きました

地区インターアクト委員 堀本保美さん

インターアクトの関係でお邪魔致しました よろしくお祈り致します

小林 英毅

本日は囲碁会です 4F 楓の間でお待ちします

大口 弘和

次年度ガバナー補佐の委嘱状をお受けしました

本日は遠くからありがとうございます お話よろしくお祈り致します

油田 弘佑

林 正路

加藤 重雄

松居 敬二

西川 豊長

佐野 寛

鈴木 聖三

谷口 優

渡邊 源市

足立 一郎

池森 由幸

喜多 康夫

宮尾 紘司

大谷 恩

笹野 義春

竹内 克豊

舎人 経昭

吉田 節美

萩原喜代子

伊藤 健文

小杉 啓彰

三好 親

佐久間良治

鈴木 理之

竹内 眞三

和田 正敏

吉田 玄

本日は遠くからありがとうございます お話よろしくお祈り致します

合計 52,000 円

次回例会 平成22年10月5日(火) 4階 雅の間
職業奉仕月間 優良従業員表彰